

豊田市の交通まちづくりの取組みについて



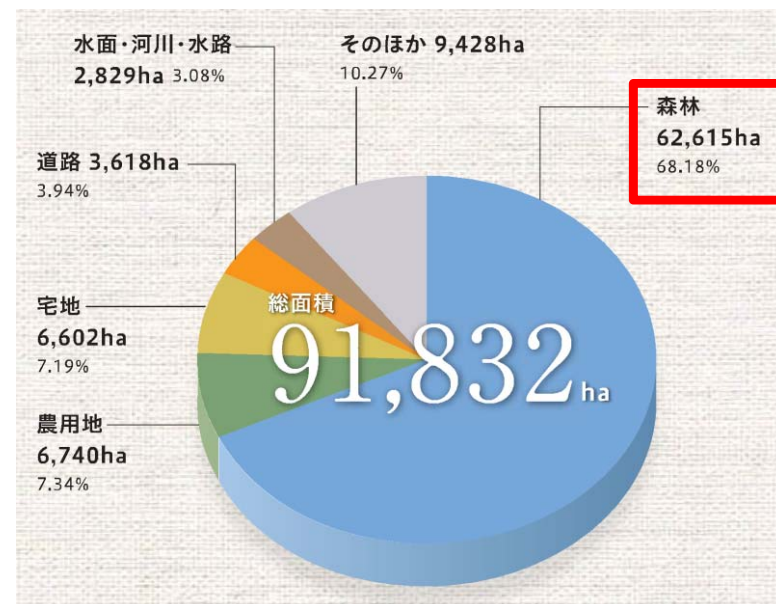
豊田市 副市長 磯谷裕司



豊田市の概要①



地目別土地利用の状況



クルマの街

産業も生活も自動車を中心

- ・乗用車の保有台数は1世帯当たり1.63台 (2015年)
- ・製造品出荷額等 全国第1位
12兆7068億円 (2013年:従業員4人以上)

- ◆ 市域の**約7割**が森林
- ◆ 産業都市と中山間地の過疎地域が共存
- ◆ 工業だけでなく、農作物の生産も多い
⇒梨・モモ・お茶などが県内有数

面積 : 918km²

最高地 (海拔) : 稲武町 (1,240m)

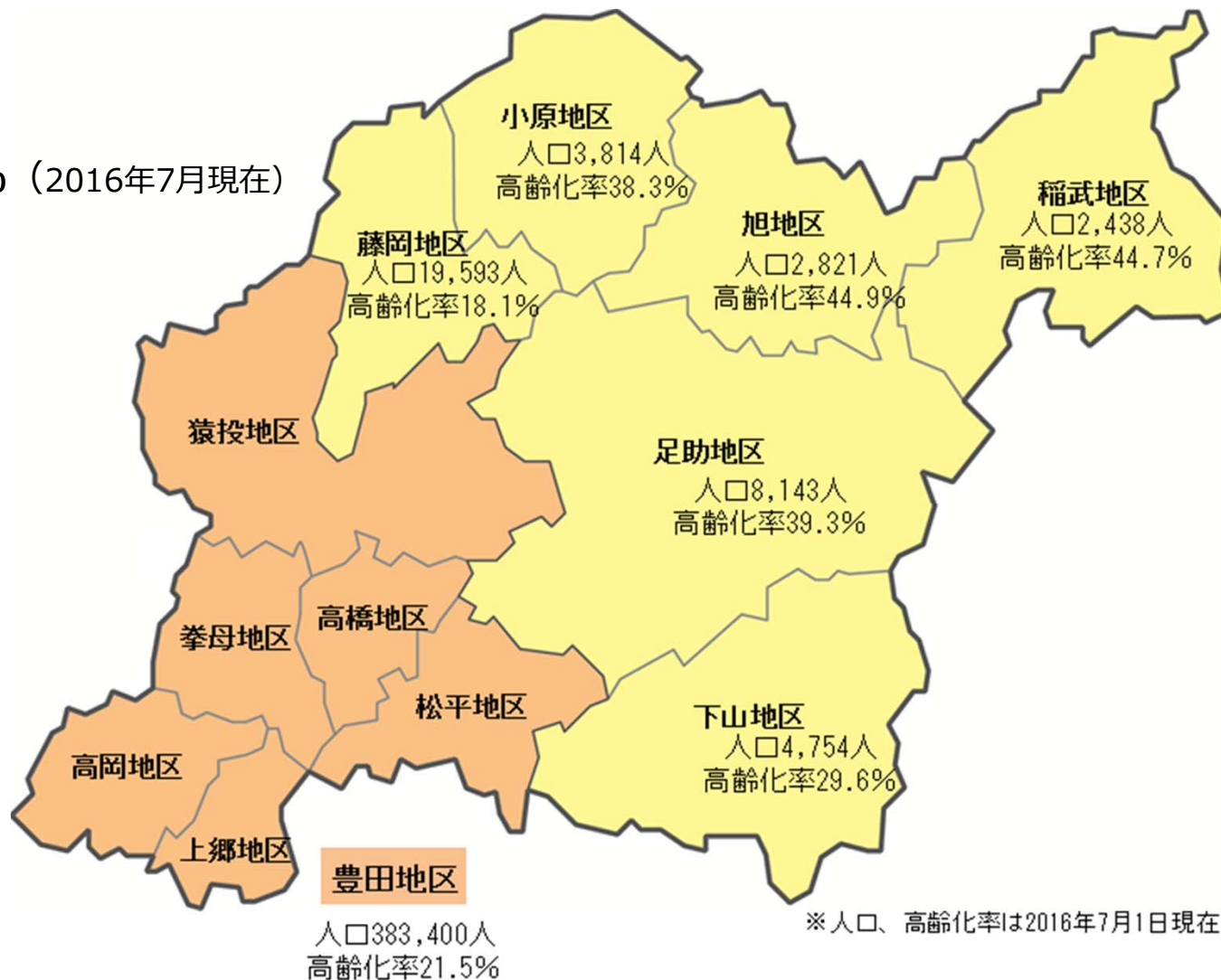
最低地 : 駒新町 (3.2m)

人口 : 42.3万人 (2016年3月)

豊田市の概要②

高齢化率21.27% (2016年7月現在)

⇒**超高齢社会**



高度経済成長と昭和の大合併

- ・産業誘致による工場の分散立地
- ・急増する人口のための住宅団地整備
- ・周辺5町村との合併 (1956~70年)

地方分権と平成の大合併

- ・周辺6町村との合併 (2005年)
- ・多核ネットワーク型都市構造

日本の縮図

- ・「都市と山間部」
- ・「超高齢社会」
- ・持続可能な都市のモデル

豊田市の取組み

2009年 1月 環境モデル都市に選定

2010年 3月 PHV先行導入

2010年 4月 次世代エネルギー・社会システム実証地域に選定

(2011年 3月 東日本大震災)

2011年11月 地域活性化総合特別区域（次世代エネルギー・モビリティ創造特区）に指定

2012年 5月 低炭素社会モデル地区「とよたエコフルタウン」第1期オープン

2012年 7月 「東海丘陵湧水湿地群」がラムサール条約に登録

2012年10月 Ha:mo実証開始

(2013年12月 交通政策基本法施行)

2014年 4月 低炭素社会モデル地区「とよたエコフルタウン」グランドオープン

2014年10月 ウイングレット公道実証開始

(2014年12月 燃料電池自動車販売開始)

2015年 1月 FC（燃料電池）バス実証開始

2015年 1月 国連との共催による国際会議開催

2017年11月 豊田市駅前通り北地区市街地再開発事業竣工

2019年 ラグビーワールドカップ

(2020年 東京オリンピック・パラリンピック)



豊田市交通まちづくりビジョン・行動計画

人口減少や超高齢社会、グローバルな大交流時代を迎える中で、世界に誇れる「かしこい交通社会」を目指して、基盤となる「環境」「安全・安心」、柱となる「交流促進」「移動円滑化」を4つの基本目標とした交通まちづくりを進めることで、人々の暮らしやすさとまちの魅力・活気・交流を高める。

<目標年次：2040>

方向性

これまでの交通まちづくり
ネットワークや安全性など
交通の基盤づくりを重視



これからの交通まちづくり
モビリティ(移動)の質の向上と、それらをかしこく使える環境づくりを重視



人々の暮らしやすさとまち
の魅力・活気・交流を高める

～ 理念 ～

世界に誇れる「かしこい交通社会」

- ①都市部～山間部～市外まで、丸ごとつながる交流・躍動のまち
- ②多様な移動手段が調和し、誰もが快適に移動できるやさしいまち
- ③世界一安全・安心・快適で、交通事故のないまち
- ④環境と利便性が両立した交通が支える持続可能なまち

民産学官による共働、
横断的なITS・ICT・TDM等の活用による施策の支援

4つの基本目標

人々の暮らしやすさ
まちの魅力・活気・交流

① 交流促進

② 移動円滑化

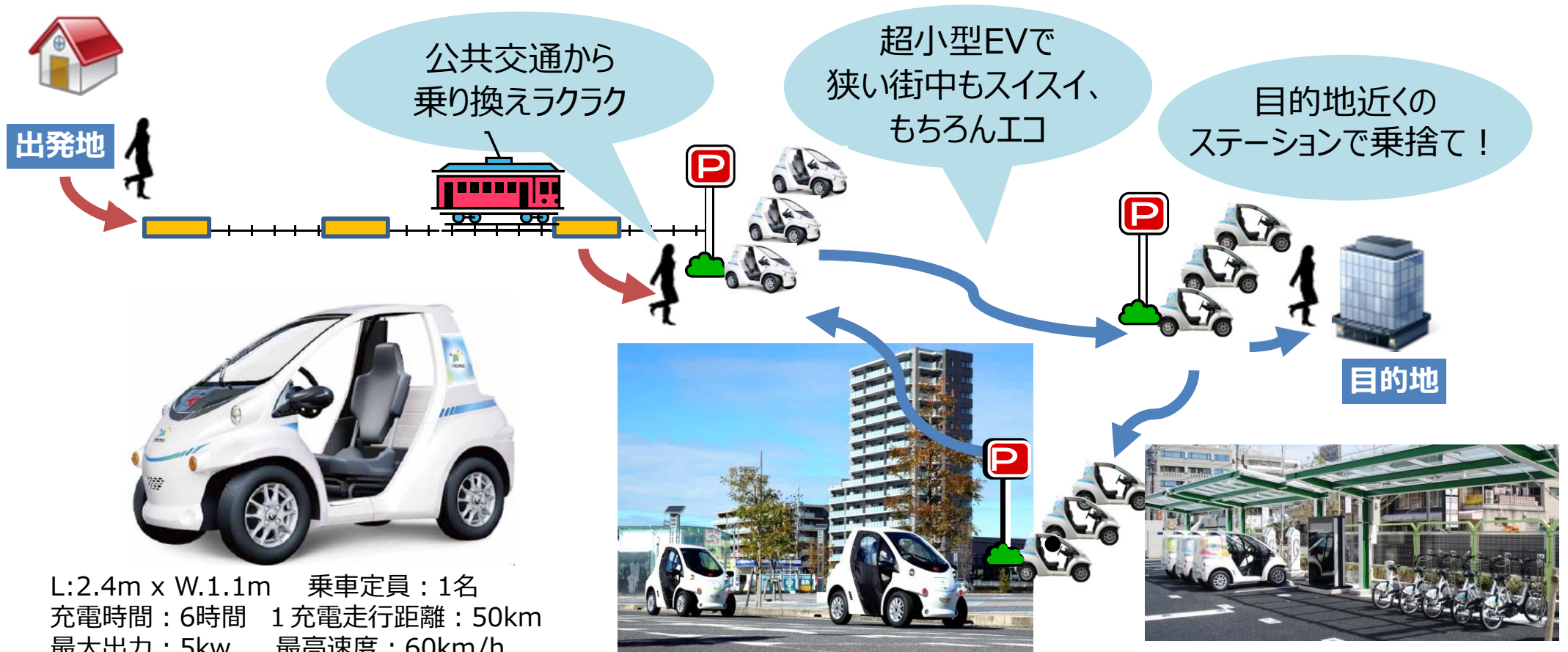
③ 安全・安心

④ 環境

シェアリングシステム実証実験 (Ha:mo) ①

「次世代エネルギー社会システム実証事業」として、民間企業（トヨタ自動車、ヤマハ発動機）、豊田市の共働により、新しい都市交通システム通称Ha:moの実証実験を2012年10月より開始

- 乗りたい時にちょこっと乗る、「ワンマイルモビリティ」
- 公共交通と連携する、短距離シェアリングサービス



シェアリングシステム実証実験 (Ha:mo) ②

【フェーズ1：先行実証】

- ・2012年10月より先行実証開始

車両数(COMS・PAS)：各10台、ステーション数：4箇所、会員：100名



COMS(P-COM) PAS

【フェーズ2：本格実証】

- ・2013年10月より本格実証開始

車両数(COMS・PAS)：各100台、ステーション数：25箇所、会員目標：1,000人

- ・新型車両の導入 2014年2月：T-COM (2人乗り) 3台

- ・PAS実証の終了 (2015年3月末)



COMS(T-COM)

【フェーズ3：実証の継続】

- ・COMS実証の継続 (2017年3月末まで)

⇒シェアリングを中心とした端末、補完交通、周遊・回遊の可能性を引き続き検証

- ・車両103台、ステーション53箇所、会員2,767名、法人数67法人 (2016年7月末現在)

○利用者の声

- ・駅前であらゆる気軽に借りて市内を自由に回遊することができるのでよく使っています。
- ・乗り捨てができるので、行きと帰りで違う場所にでかけるときに便利です。

パーソナルモビリティ実証実験

歩行者と共存しながら回遊性を高めるためのツールとしてパーソナルモビリティの活用及び普及促進を検討し、2010年度より実証実験を実施している。

○2015年度実証実験

1. 観光振興（公道ツアー）

観光振興を目的とし、豊田市の中心市街地を観光する公道ツアーを実施。⇒一般市民40人の参加。

＜公道ツアー参加者の意見＞

- ・徒歩よりも楽し、目線も高くなるので快適だった。
- ・爽快感があってとっても楽しかった。もっといろいろな場所に行ってみたい。

2. 中心市街地活性化

イベント等において、一般市民の体験試乗やデモ走行を実施。

3. 通勤、業務利用

通勤、業務利用を目的とし、市職員や駐車場管理者での模擬シェアリングを実施。

⇒通退勤にて240回利用



立ち乗り型パーソナルモビリティウイングレットによる公道ツアー

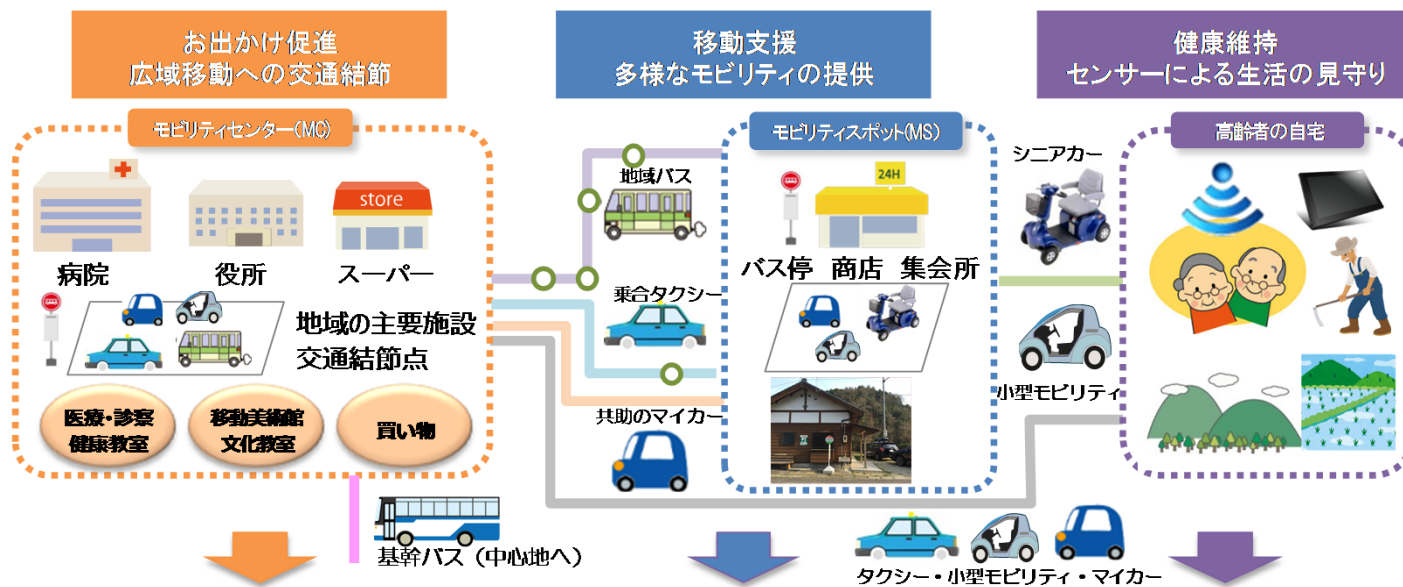
○2016年度実証実験

引き続き上記3つのシーンを中心に、公道ツアーのコース追加等を実施しつつ、いつでもどこでも誰でも安全に新たなモビリティを利用できる環境を検証していく。

ITSを活用した移動支援実証（共助のマイカー）①

- 名古屋大学等と共働で中山間地域における高年齢者の移動性を高める社会システムを提供
- ①お出かけ促進策の実施、②多様なモビリティの提供、③健康維持のための生活の見守りをICTを活用して行う実証実験を実施

中山間地域のモビリティを高める社会システム



お出かけ促進の情報提供



既存教室との連携

モビリティブレンドシステム

多様な交通手段の提供

共助促進ポイントMSPP

共助を促進する地域マネー

健康見守りデータ取得



健康アドバイス

コミュニティ・サポートシステム (community support system)
4つのサービスを統合的に提供する社会システム

- 事業名
名古屋大学COI事業
- 実施期間
2013～2021年度
- 実施団体
・名古屋大学
・東京大学
・豊田市等

ITSを活用した移動支援実証（共助のマイカー）②

中山間地域にて、マイカーを持っている人が高齢者を送迎する実証実験を実施している。（送迎のマッチングはタブレットを活用）



～移動手段の予約～



あすけあいかー※
とはどんなしくみ？

※住民同士が支えあい、
高齢者の移動を助ける仕組みです。



マイカーに高齢者を同乗させてくれる方を今後募集します。

1 同乗のお願いを登録



2 お願いの確認・同乗の承認を登録

3 乗車予約が成立



4 出発地にお迎えに行く



5 目的地に到着



ビッグイベントに向けて

2019年ラグビーワールドカップに向けて、F CバスやHa:mo、パーソナルモビリティ等の新たなモビリティも含めた多様な移動環境を整え、中心市街地での回遊やにぎわいの創出に活用
⇒他地域への展開につなげていく。

F Cバス（燃料電池バス）を市内のバス路線で実証運行（国内唯一）

- 実証期間：2015年1月から2017年3月まで（予定）
- 運行本数：8～9便／日

2016年



2019年
ラグビーワールドカップ

2020年
東京オリンピック・
パラリンピック



今後の方向性

○Ha:mo、パーソナルモビリティ等

都心部:公共交通を補完する端末交通、にぎわいの創出や観光振興への活用
中山間地域:観光地の周遊、交通結節点や集会所までの日常の短距離移動

⇒モビリティと先進技術の融合

- ①高年齢者等の運転支援により、運転寿命が延びる
- ②自動運転技術により、シェアリングシステムの車両の配回送を行う など

○共助のマイカー等

- ・バス運行（曜日や時間等）が限定的な地域における公共交通を補完する日常の移動としての活用
- ・人口減少によるバス運行の維持が困難な地域での代替移動手段としての活用



人々の暮らしやすさとまちの魅力・活気・交流を高める



世界に発信、拡大